

世界救世教①之光教団 高知布教区信徒大会 教主様お言葉

於：一宮布教所

皆様おはようございます。高知布教区信徒大会おめでとうございます。

新しい年が明けてまもない今日のこの日に、①之光教団の皆様と親しくお目にかかり、共に本年のスタートを切ることができますことを、大変嬉しく思っております。

そして、ここ高知において、高知布教区を中心とする信徒の皆様が一堂に会され、明主様に結ばれたものとして、自らの中心に存在する天国に立ち返らせていただくという一体感の中で、この大会が開催されておりますことを、明主様はさぞかしお喜びのことと思います。

明主様が“よく帰って来たね、と私どもを迎えてくださって、一人ひとりに笑顔で臨んできておられるような気がいたします。

先程は、成井理事長より、本年の①之光教団の進まれる方向を、明るく、はっきりとお示しいただきました。

私は、理事長ご自身が率先して、すべては主神のみ業であることを認めることに努められ、すべてを主神の栄光として帰し、自らを捧げる想念の営みに取り組んでおられますことを、大変頼もしく思っております。

また、〇〇布教所の〇〇さん、〇〇布教所の〇〇さん、お二人よりの感謝奉告を皆様と共に聞きし、心から感動いたしております。

お二人共、夜昼転換を成し遂げられた主神による全く新しい営みの中で、主神と交流させていただくという想念の実践、すなわち、主神に意思表示させていただく実践を、すべての方々と共に、という思いをもって取り組まれ、そこから、何にも代えがたい養いを受けておられるお姿を目の当たりにし、深い感銘を覚えた次第であります。

私は、夜昼転換した新しい時代にあって、こうした新しいご神業に、皆様と共に御仕えさせていただくことに感謝し、その一層の充実を願うとともに、このように私どもを導いておられる明主様と、明主様と共に御仕えする主神を、心からお讃え申し上げたいと思います。

さて、主神は、ご自身の創造をお始めになる前に、あらかじめ天国を用意され、その天国において、ご自身の子をお生みになるというみ旨を「メシア」という御名に託されて、明主様だけではなく、私どもをご自身の分霊^{わけみたま}としてお生みになり、その天国から、天地万物一切の創造をお始めになりました。

この「メシア」という御名についてであります。私ども人間は、生まれ

た子供に名前を付ける時、親としての思いを、その名前に託すものであります。

主神が私どもの^{まこと}真の命の親であるならば、なおさらのこと、このメシアという名前にご自身の深い愛と望みを託されて、私ども分霊を生んでくださったのではないのでしょうか。

そして、明主様が「メシヤは赦し主」と仰せになりましたように、また、お歌にも、「大救主の御名は最後の世を救ふ尊き御名なり心せよかし」とお詠みになりましたように、メシアの御名には、主神が全人類を赦し、救い、ご自身の子とするという深い愛のみ心が込められております。

このメシアの御名にある、主神の愛のみ心、すなわち、創造のみ旨は、主神のほうではすでに成し遂げておられるのであります。

言い換えれば、主神は、ご自身の創造のご計画に、すでにピリオドを打っておられるのであります。

そして、創造された天地万物一切は、メシアの御名に結ばれており、主神のご計画がすでに成し遂げられていることをご存じなのであります。

主神の分霊として地上に遣わされている私どもは、主神が、創造の目的だけではなく、成し遂げられた結果をもお持ちになった上で、一切の創造をお始めになり、昔も今も、絶え間ない創造を続けておられることを認め、私どものほうでもピリオドを打たせていただく務めがあるのではないのでしょうか。

明主様は、主神のご計画がすでに成し遂げられていることを確信されたからこそ、昭和10年元旦の本教ご立教に際し、多くの困難に直面されているにも拘らず、「大光明世界」、即ち、地上天国が「確かにできるんであります」と仰せになり、「チャンと、そう太初^{はじめ}から神様が御計画なされて決まっているのであります」と、このように、主神に対する絶対的な信頼をもって、気迫に満ちたお言葉を発せられたと思わざるを得ないのであります。

この明主様の主神に対する信頼は、その後も決して揺らぐことはなく、ご昇天の前年には、重大な病のさなかに、「新しく生まれる」と仰せになって、ご自身の中で「メシヤが生まれた」ことを、大きな喜びをもってご発表になられたのであります。

私どもは、このような明主様を模範とさせていただき、ご計画を成し遂げられた主神を心から信頼して、お仕えさせていただかなければならないと思います。

ですから、私どもは、自分自身の体のことや、家族や身近な人の間で起き

たことなどで、悩み苦しんだり、怒ったり、悲しんだり、喜んだりした時に、そうした身近な問題を、些細な事、私事として済ませてしまわないほうがよいとわたくしごとと思います。

主神は、すべてをお赦しになり、すべてをお救いになった方であられます。

その主神は、今、私どもの何を赦し、どこから救い出したかを私どもに気づかせてくださろうとしておられます。

そして、私どもに担わされている未熟なところを、私ども自身や身の回りに起こることを通して照らし出してくださり、表に現すことによって、主神の赦しと救いが、私どもだけではなく、すべてに及んでいることを私どもに教えてくださり、今までの歩みにピリオドを打ってくださっているのです。

ですから、私どもは、主神に対し、“あなたが赦し、救ってくださったのは、今わたしが抱えている、このことだったのですね、ありがとうございます、と申し上げ、主神の赦しと救いがすべてに及んでいることに感謝し、その栄光を、明主様と共におられる主神に帰すとともに、自らを主神に委ねさせていただくことが、今までの自らの歩みにピリオドを打つことになると思います。

主神は、今の私どもがどんなに至らないものであっても、私どもを、明主様と共にあるメシアの御名にあって、赦され、救われたものとみなして下さっております。

そして、私どもをご自身の子とするために、すべての始まりである天国に立ち返らせ、私どもと常に思いを通い合わせることができるようになれたいと強く願っておられます。

主神と私どもとの思いが通い合うためには、思いを形づくる「言葉」が必要であります。

そのために、主神は「言葉」というものを用意して下さっていると思います。

明主様は「言靈神也」という御書をご揮毫になりました。

この御書を通して、明主様は、言葉は主神のものであり、主神がお使いになるための言葉であることを、私どもに教えてくださっているような気がいたします。

ですから、私どもは、言葉そのものを自分たちのもののように使っているにも拘らず、そのことを主神が赦して下さっているからこそ、主神と交流させていただけるということ、何よりもまず、忘れないようにしなければ

ならないと思います。

そして、私どもが言葉をもって主神との交流に努めさせていただくということ、そのこと自体が、主神の願いにお応えするための大切なご神業奉仕であります。

私どもは、ご神業奉仕という言葉を使わせていただいておりますが、そのご奉仕には、目に見えるご奉仕だけではなく、目に見えない心による大切なご奉仕もあるのではないのでしょうか。

心の状態が良くても悪くても、心という自我意識そのものは、主神が私どもをご自身の子供とするためにお創りになった、無くてはならない大切なものであります。

私どもの意識の中心におられる主神は、明主様を通して、“すべてのものを天国に迎え入れたのだから、赦され、救われたものとして帰っておいで、”という思いを、全人類とその父母先祖の方々を始め、すべてのものに告げ知らせるとい主神のみ業、すなわち、ご神業を、私どもの心をご自身の心としてお使いになって、今、成し遂げておられるのではないのでしょうか。

ですから、私どもの心にどんな思いが去来しようと、決して否定的になる必要はありません。

主神は、全人類を天国に立ち返らせるために、私どもの心に、否定的な思いも、肯定的な思いも結んでくださっているのですから、それがどのような思いであったとしても、“明主様と共にあるメシアの御名にあって、すべてのものと共に、赦され、救われたものとして、天国に迎え入れてくださいましたことを感謝いたします。わたしに結んでくださったこの思いを、明主様と共におられる主神に委ねさせていただきます、と、例えば、このような思いを主神に捧げさせていただくことが、今までの歩みにピリオドを打ち、主神の新しい創造というご神業にご奉仕させていただくことになると思います。

夜昼転換した今、私どもの中心に存在する天国は、新しい天国になっているのであります。

すべてのものが赦され、救われて、天国に迎え入れられているのであります。

私どもは、今までの私どもではなく、新しい天国に包み込まれ、新しい営みの中で、今、養い育てられているのであります。

ですから、私どもが自らの未熟さ、至らなさに気づかせていただけたとしたら、また、心が揺らいで、否定的な思い、後ろ向きの思いになったならば、

それは、私どもが次の新しい段階へ進むことができる時が来たことを教えてください。明主様が力強く臨んできておられるからであります。

私は、私どもが一年一年、年毎の区切りである新年を迎えさせていただけるということは、主神が私どもに対し、一段と前進することができるようにしてくださっているからだと思います。

新しい年を迎えて、私どもは今日までの歩みにピリオドを打ち、自らの中心に輝く新しい天国による、全く新しい養いの中で、勇気をもって、力強く前進させていただきましょう。

終わりに、本年が皆様にとりまして新しい前進の年となりますようお祈り申し上げますとともに、明主様と共にあるメシアの御名にあって、すべてを治め、すべてを成し遂げておられる主神を、全人類とその父母先祖の方々と共に、また、天地万物一切と共に、心から感謝し、お讃え申し上げます。

ありがとうございました。

以 上